



『弱虫に打ち勝て』

奈良県

大和青少年文化研修道場

小学6年生 山下 美 樺

昨年の夏『強くなりたい』と思い、道場へ見学に行きました。始めて見た剣道はみんな礼儀正しくて真剣。けい古は厳しくて今までの自分には無い世界でした。それまでの私はできる事なら頑張りたくないし、辛い事や嫌な事からは逃げたいと思っていました。だけど、それではダメだという気持ちがあって、私の『弱虫』を直すチャンスだと思い剣道を始める事にしました。

あれから一年、初めは楽しいだけのけい古でした。新しい事を教えてもらうのが楽しくて、早くみんなと同じようにけい古がたくて毎日、家で素振りをしました。すると先生が「毎日、素振りしてるやろ」と声をかけて下さいました。日々の練習の成果が出た事、先生が小さな成果にも気付いて下さる事がうれしかったです。毎日、練習する大切さと楽しさを教えてもらい頑張るうちに面や防具を着けてみんなと一緒にけい古ができるようになりました。打たせてもらうだけだったけい古は自分も打たれるけい古になって感謝の気持ちが大きくなりました。元立ちはただ打たれるだけではなくて相手が正しく打てるように間合いに気を付けたり、相手を良く見て気を合わせなければいけません。相手の事を考えた剣道。相手が居てくれるからできる剣道。大切な頭を打たせてもらって強くなる剣道。けい古をする度に感謝の気持ちが大きくなります。それと同時に自分はきちんとできているか、いつも感謝して真剣にけい古ができているか。みんなの足を引っ張っている焦りと失敗できないと怖がってしまう『弱虫』も少しずつ大きくなっていきました。

ある日、けがをしてけい古をしばらく休まなければいけなくなりました。初めて試合に出る事が決まったばかりの時でした。『弱虫』が私の中で爆発しそうになります。みんなに置いて行かれてしまう。今まで頑張ってきた事がむだになってしまう。強くなれないのはけがのせいだと言わなければならぬみんなの練習を見ていました。そんな時、先生が練習の大切さをお習字に例えて話して下さいました。「けい古は習字の練習と同じや、半紙を何枚も何百枚も重ねて厚みがでるように何回も練習して始めて力になるんやで」それを聞いていつの間にか『弱虫』に隠れてしまった毎日、練習する大切さと楽しさを思い出しました。今はまだけがをした足は治っていないけれど『弱虫』に負けてはいられません。半紙を何枚も重ねるのに雑にしたらすぐにくずれます。くずさない為には先生の教えを守り、正しい剣道ができるように焦らないで一つ一つ丁寧にやる事が大切です。ただ見ているだけだったけい古はノートに先生のおっしゃった事を書き、家に帰ってから読み直します。誰かに注意されている事も自分への注意だと思い、ただ見ているだけではなくになりました。自分の心がけ次第でどんな時でもけい古ができる。言いわけをしないで今できる事をつみ重ね、足が治ったら失敗を怖がらず何度でも挑戦します。

努力、そして続ける事が自信になります。『弱虫』はこれから先も剣道や勉強、色んな所で出てくると思います。でも負けずに努力を続け、あきらめずに頑張る大切さを剣道で学びました。

来年、日本で世界剣道選手権大会があります。世界中の剣士が集まりますが言葉の通じない人もいるかもしれません。剣道は礼に始まり礼に終わる。この教えがあれば言葉がなくても相手を思いやる気持ちや尊敬する気持ちを伝え合う事ができます。私もいつか剣道で学んだ大切な教えでみんなに気持ちを伝えたいです。その為にも『弱虫』に負けず今日も頑張ります。